

平成22年度 第1回公立雲南総合病院 改革プラン評価委員会開催報告

今年度第1回目の「改革プラン評価委員会」(委員長 熊倉俊一 島大教授)を、8月26日(木)に7名の評価委員出席のもと開催しました。冒頭、松井院長は、病院運営に対する基本的な考え方や、今年度の主な活動方針などについて触れ、「大きな方針としては、現在のケアミックス病院(※ケアミックス病院とは、1つの病院が急性期医療と慢性期医療あるいは介護療養型の機能を併せもつこと。)を



維持し、予防・介護・医療それぞれの分野を充実させる。4疾病5事業の内の5事業(へき地医療、災害医療、救急医療、小児医療、周産期医療)の充実を図る。地域医療人育成センターを中心に島根大学医学部と連携して、総合診療を担う総合医の育成に力を入れる。開業医の先生方との連携強化に向け、雲南医師会の事務局を雲南病院内に設置していただく方向である。経営改善、職員の意識改革を図るため「QC(Quality Control)」の手法を取り入れる。」などについて述べました。

また、今回の委員会は、平成21年度の改革プランの進捗状況並びに、決算状況を報告し、各委員から評価を受けることを目的に開催しましたが、委員からは「医師会の事務局を病院内に設置することは、地域医療の連携という観点からも大変いいことである」など、総合的に頑張っているとの評価をいただきました。

最後に、熊倉委員長から、「改革プランについて、現在の大変難しい状況の中少しずつではあるが確実に進んでいる。大きな課題である医師、看護師の確保について、厳しい状況の中で、現在残っておられる先生方が一生懸命頑張っておられ、このことを理解していく必要がある。そ

の為には、住民、行政、大学とがお互い理解しながら、地域を良くして行く為には何をすべきか、何が大切かをしっかり見据えて取り組まなければいけない。雲南病院は何か出来るのか、何が売りなのかということもピーアールしながら、意思の疎通をよくし住民との信頼関係をより強くしていくことが必要である。」という総括をいただき閉会しました。



地域での研修会に三木堯明医師が講師として参加

9月16日(木)チェリバホール3階大会議室において、雲南市老人クラブ連合会木次支部女性部の皆さんによる研修会が開催され、整形外科の三木堯明 医師(人工関節センター長)が講師として出席し、「お年寄りの腰と膝」と題した内容で講演しました。

当日は、131名という大変多くの参加者のもと、三木医師が腰の痛みなどの対象方法や、痛み止めの服用、湿布薬を貼付する際の注意点などについて講演し、その後質問に答える相談形式で行いました。

参加された皆さんからは、膝の痛みや変形、骨粗しょう症、人工関節に関することなど様々な質問が寄せられました、また、自分の体験から「三木先生の講演をきっかけに、昨年人工関節の手術を受け、今では以前同様に畑仕事などの農作業ができるようになった」などの発言もありました。

今後は、この様な講演活動や10月から始めている医療出前講座などを通じて、地域に出かけ住民の皆さんとの触れ合いの場も積極的に作って行きたいと思っています。



雲南病院アートフェスタを開催

7月31日(土)に「アートフェスタ」を開催しました。これは、病院にあるものに顔などを書いて、キャラクター化(ゴ布林)したり、病院1階ロビーの壁などで、そこにある設備を生かしてさまざまな顔を作る(顔ゴ布林)イベントで、雲南ブランド化プロジェクトの一環として来市されたアーティスト、小中大地さんをお招きして行いました。

当日は、市内の小・中学生を中心に12名の子供たちが参加し、段ボールで作った目、鼻、口を電気スイッチや、壁の模様などを顔に見立て、様々な表情の「顔ゴ布林」を作りました。

参加した子供たちから、「大きい目やちっちゃい目、大きい口を使って、いろんなのが作れた。病院に来た人を見て、元気になってほしい」などの感想も聞かれました。

また、小中さん作成の病院にまつわるものをキャラクター化した作品「病院ゴ布林」の展示や、病院ゴ布林を直接壁面などに描いた「マスキングアート」なども作成していただき、患者様にも大変好評でした。

今後も、明るく親しみを持てる病院の雰囲気作りに心掛けて行きたいと思っています。

◆ゴ布林・・・いたずら好きの妖精



ドアの鍵の部分に鼻に見立てた、「顔ゴ布林」。



小児科前ホールの壁画アート「マスキングアート」



自分で作ったゴ布林を持って記念撮影



検尿コップに顔を書いて、「検尿コップゴ布林」作りに挑戦。



作品名「病院ゴ布林」